

カバキコマチグモ

カバキコマチグモは全国の山野に生息し、網を張らずに歩き回って餌をとるクモです。

雌グモはススキなどの葉を、粽(ちまき)状に巻いて巣を造り産卵します。孵化した子グモは母親の体を餌にして成長することで知られています。

カバキコマチグモは、住宅地に近接した低山帯に広く生息するため、わが国におけるクモ咬症の最大の原因種となっています。

被害

草刈りや農作業の際に咬まれることもあります。夜間就寝中に咬まれる例も報告されています。

交尾行動のため、雌グモを求めて歩き回っている雄グモが家屋内に侵入し、就寝中などに無意識に手ではらったり、靴の中にいたことに気づかず、誤って触れるなどして被害にあいます。

県内での被害は4月から9月頃までみられますが、6月から7月に集中しています。

症状

咬まれた部位に、激しい痛みが持続し、腫れや痛みだけでなく、頭痛や発熱をともなう全身症状がみられることもあります。

抗ヒスタミン剤やステロイド軟膏を塗れば痛みや腫れはおさまりますが、症状が改善されない場合は、患部を冷やして、医療機関を受診しましょう。

カバキコマチグモ被害 発生時期											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12



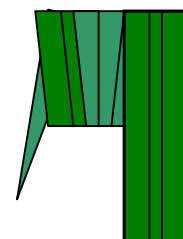
カバキコマチグモ ()

体長 9~10mm, 10~12mm

* 体長 : 頭部先端から腹部末端まで
(脚の長さは含まない)



大きな牙 () 鎌状で約3mm



イネ科の葉

巣 粽(ちまき)状に巻かれる

予防

山間部や造成地などでは、住宅がススキなどと接しないように住宅周辺を整備し、網戸を設置して、クモの侵入を防止しましょう。

一般に、クモを脅かさなければ咬むことはありませんが、直接手などでつかまないように注意してください。また、ススキ原などを歩く時は、肌をあまり出さないようにしましょう。

また、粽状に巻かれた葉をみつけても、触れないようにしましょう。

不快害虫としてのクモ類

クモ類は、嫌われる虫の上位にランクしています。

我が国では、1000種類以上のクモが知られていますが、一般に実害はなく、ハエなどを補食する益虫です。



<参考文献>

- 1) 松崎沙和子, 武衛和雄 著 : 都市害虫百科 (株)朝倉書店(1993)
- 2) 奥谷禎一 監修 : 原色ペストコントロール図説 第 集 (社)日本ペストコントロール協会(2001)
- 3) 大滝倫子ら 著 : 節足動物と皮膚疾患 東海大学出版会(1999)